

## 社会環境部会 2019 秋の大会における全体会議メモ（案）

平成 31 年 9 月 24 日

### 1. 開催日時

2019 年 9 月 11 日 12 : 25 ~ 12 : 55

### 2. 開催場所

日本原子力学会秋の大会 H 会場

### 3. 参加者

土田部会長、佐田副部会長、他運営小委員会委員および社会環境部会員…計 18 名

### 4. 概要

○ 土田部会長が開会挨拶を行った

#### (1) 定例報告

- 本日は定例報告の後、部会として検討しなければならない課題について意見交換したいので、定例報告は簡単に進めたいとの紹介が有り、最初に山本事務局長より 2019 年度における運営小委員会の構成の紹介並びに委員の交代（竹内さん、島田さんが退任し、伊藤さん、原さん、高木（宏）さんが就任）について紹介があった。以上の委員の交代については異議なく承認された。
- 続いて、高木（利）委員より 2019 年度の予算並びに執行状況について紹介が有り、異議なく承認された。また、関連事項として木藤委員より部会ホームページの見直し計画について紹介があった。
- 引き続き寿楽委員より、秋の大会における理事会との合同企画セッションについて紹介があった。
- 伊藤委員欠席のため山本事務局長より「マスメディアとの関係構築」に関する昨年度の実績と今年度の計画が紹介され、承認された。
- 土田部会長より「安全安心のための管理技術と社会環境ワークショップ」及び「データベース管理ワーキンググループ」の活動に関する報告が行われ、承認された。
- 定例報告の最後に、山本事務局長より PSWG 主査としてポジション・ステートメントの現状の紹介があった。

#### (2) フリーディスカッション

- 佐田副部会長より「原子力に携わる人たちと市民とのインターフェイサー社会・環境部会の取り組みについて」と題して論点の紹介があった。主な論点は下記の通り。
  - ・ 原子力関係者の中には「市民に科学技術の知識を与えれば受容される」

という欠如モデルにもとづく考えをする人が多い。その結果、日本の原発 PA は技巧的な側面が重視されてきた。

- ・ 関係者がそのような考えをしがちな根底には、専門家支配や中央集権志向、要するに「原子力のような問題は国の成否にかかわるような重要事項であり、このような問題は経験や知識をもった専門家に判断を委ねることが適切。判断を誤れば取返しがつかない」という、パターンリズム的思考が優勢で、これが欠如モデルと親和性をもつのではないか。
  - ・ 必要なことは、専門家と社会（市民）とをつなぐフィードバックの回路の重視ではないか。
- その後、参加した一般部会員から意見を求めたところ、以下の様な質問や意見が出され、限られた時間内ではあったが、運営小委員会のメンバーとの意見交換が行われた。運営小委員会としては、これらの意見も参考にして次の展開につなげる予定。
- ・ 市民はどのように定義されるのか
  - ・ 政治家や議会関係者は市民から負託は受けていると言えるが、市民そのものとは言えない。
  - ・ また、市民に呼びかけ集まってもらって対話することは可能であるが、その人たちが市民の代表とは必ずしも言えない。
  - ・ ただし、特定の意図を持って複数の人を集め、その議論を他の市民に見せることは可能であり、市民との対話の形態として、一つのやり方かもしれない。
  - ・ 市民の意見を重んずる余り、ポピュリズムに陥いるというようなことがあってはならない。
  - ・ 市民の現実的な不安に対処もせず将来の不安について話しをしても受け入れられない。
  - ・ 市民の関心毎に寄り添う必要が有る。原子力関係者にとって、市民は歩み寄りざるを得ない存在と言える。

以上